

村半利活用検討会（令和3年度第3回）結果報告

日時 令和3年11月26日（金）16時00分～17時30分

場所 村半 大会議室

出席者 検討会メンバー7名、事務局（企画課）3名

内容

1. 協議事項

(1)利用状況等について

- ・令和3年9月から10月末までの利用状況や占用利用実績等について説明
- ・今後の占用受付について

2. その他

- (1)近隣にお住まいの方へのアンケート調査結果について
- (2)近隣にお住まいの方への広報について

<意見交換、質疑> メ:構成メンバー、事:事務局

○協議事項について

:車いすの方の対応について、主屋や蔵の奥まで工夫して行くことはできないか。

事:通り土間から多目的トイレまでがバリアフリー対応としており、主屋やそれより奥については人の手の介助により対応している。蔵の中や主屋の奥まで行くことが困難な方に対しては、蔵の中を撮影した映像を見ていただきながら案内している。

メ:現在の小・中・高校では、車いすの子どもとそうでない子どもと一緒に勉強している。難しいことと思うが、若者に広げていくためには利用できない子どもが少なくなるように少しでも改良できると良い。

事:市では「誰でもやさしいまちづくり条例」を制定し、建築物は国の基準以上の基準を定めて対応しているが、文化財などは保存にも配慮しなければならない。

メ:車いすの方にはスロープを設置しても上り下りのときの介添えを要する方が多いと思う。文化会館についても、大ホールの舞台に上がるまでが大変そうである。市の姿勢として少しでも努力していかなければならないと思う。

メ:整備の検討にあたり、2階も利用できるようエレベーターを設置したり、耐震補強し施設全体をバリアフリー化したりする案もあったが、地元を中心に歴史的な価値を大事にしてほしいとの要望があり、現在の状況になった経緯がある。

メ:明治8年の建設当時はバリアフリーという発想はなかった。構造までは無理としても現在の状況に補助的な器具を付けるなどの工夫を検討してほしいと思う。

事:当面は人の手による介助での対応などソフト面でフォローしていきたいが、今後も研究していきたい。

メ:市主催のイベントの計画はあるか。

事:市として、事業実施の予算は確保しているものの、この施設の特性として市が積極的にイベントを実施していくというスタンスではなく、利用者に主体的に実施してほしいと考える。その上で、利用者主体のイベントに対してサポートしていくような仕組みができればと考える。

メ: 修学旅行で来る学生や学校に対して、この場所の魅力を知ってもらったり、興味を持ってもらえるよう、歴史に詳しい方に話や案内をしてもらうのはどうか。

事: 来所者に対する専門家の案内はないが、スタッフによる説明を充実するために飛騨高山まちの博物館の館長に講師になってもらいスタッフの勉強会を行っている。

メ: 修学旅行については飛騨高山まちの博物館でも受け入れを行っており、学芸員が説明をしている。まちの博物館には学芸員が常駐しており、施設の特性に応じた利用をすすめていく方が良い。村半を拠点として他の施設も周遊してもらえたらと思う。

メ: 利活用検討会の構成員に対して村半の歴史などに詳しい方に話してもらい機会を設けてほしい。

事: 検討する。

メ: 雫宮祭では高校生とどのような関わりを持ちたいと考えているのか。また、祭に高校生の参加がふさわしいかという点で問題はないか。

事: 雫宮祭実行委員会の方からは、この祭を次の世代につなげていくために、若い方に祭や祭に関わる人の思いなどを知ってもらい、祭に参加する世代の垣根を広げていきたいとのことであった。高校生には神輿への参加というよりは、バザーを開いてもらうことや、祭を見に来てもらうことなどを期待されており、特に問題はない。なお、他の方からも若者につないでほしいといった相談を受けることがあるが、個人情報保護にも留意しつつ、若者の安全といった点を第一に考え慎重に対応している。

メ: 若者に関わりたいという相談に対しては、知り合ったことで勧誘や物品の販売が村半以外の場所で行われる可能性もあるため、今後も注意してほしい。

メ: 中央蔵1階の利用における時間制限は現在も行っているか。利用実績の中に長時間の利用がみられる。

事: ご指摘の中央蔵1階の長時間の利用については、途中で一度退出している。蔵の利用については、共用利用は1時間ルールで、占有利用は交流といった目的の場合は原則3時間とし、会議など目的に応じて必要な時間の利用を許可している。

メ: 占有利用の受付の際、イベントについては来所想定人数を聞いたほうがよい。

事: そのように対応していく。

メ: 「2021飛騨の家具フェスティバル」の占有利用について、村半では販売は行われたか。

事: 販売はしておらず展示のみである。来年の春に完成予定の「宮川左岸賑わい創出施設(仮称)」ではイベントでの販売もできるようなことも検討されている。まちの体験交流館など、周辺の様々な施設との連携、組み合わせにより、地域全体を共に盛り上げていきたい。

メ: 「ロボット製作無料体験」について、営利の利用ではないか。

事: 無料の製作教室であり物販はされていない。

メ: その場所では販売はしなくとも、購入できることを伝えるような行為が営利となるのではないかと判断が難しいところはある。文化会館においては、販売といった営利行為がなされていないかを利用当日に確認することもある。

メ: 今後開催予定の「防災パネル展」について地域へ回覧してもよいか。

事: お願いしたい。

メ: 村半は昔倉庫だったという方がいる。村半では元は何をしていたかということを利用検討会の構成員も知っていたほうが良いと思う。

事: 先ほどもお話のあった構成員のための勉強会の開催を検討したい。

メ: お正月に「松飾り」をしてほしい。

メ:「松飾り」を見たことがない若者もいると思うので良いことだと思う。

事:検討する。

○その他について

メ:地域の方は、若者が活動するための施設ということを知っているのか。

事:地域の方への広報誌には、簡単な施設の概要などの説明を入れた。

メ:高校生より上の世代の方は駐車場の問題で利用されないかもしれないが、そういった方にも使ってほしい。20代からの利用はあるか。

事:コロナが少し落ち着いてきて、最近「村半でこんなことしたい」という相談が増えてきた。営利の目的ではないか等利用条件を確認しながら、よく話を聞いて対応している。

事:現在は、観光、視察、イベントの相談などニーズに合わせて丁寧な対応を心掛けているが、そのような方への案内を優先してしまうと、若者などの利用者への対応が後まわしになってしまうなど、距離が遠くなってしまっていると感じている。事務所と蔵が離れているという環境もあるが、蔵へ出向いてあいさつなどの声掛けなど顔を合わせる機会をできるだけ持とうとしているが、事務所をずっと離れることもできず難しいとも思っている。中高生との関わりを自然発生的に起きることを待っていたほうが良いのか、意図的に関りをもつための話を聞く機会を作っていたほうが良いのではないかと迷いがある。先日、高校生の頃から利用されている大学生に「なぜ村半に来てくれるのか」と聞いてみたところ、「高校生のときの思い出があって来やすい。ここでは勉強以外のいろいろなことができたし、少しだけでもスタッフと話ができたことが印象に残っている」と話してくれた。スタッフから話しかけられることは嫌ではなく、「うれしかった」と答えてくれた。イベントという大きなものとして行うのではなく、日常的に少し話ができるような場所やきっかけづくりなど、つながる術を探している。

事:コロナが落ち着き観光客が戻ってくるとさらに多くの方が訪れることが予想されるため、観光客の対応については簡素化するなどの仕組みづくりをしたい。

メ:施設案内は観光客全員に行っているのか。

事:全員ではない。自由に見ていただくこともあれば、簡単な説明のみ行う場合もある。興味のある方には案内をしている。

メ:コロナが収まり観光客も多くなった場合、観光客のための案内ガイドを加配してはどうか。

メ:スタッフがどこをどのように案内していて、どれだけ時間をかけているのかが見えると良い。観光客も映像ではなくて生で話を聞きたいということもあると思う。案内にどれくらい時間がかかっているのか、車いすの方にはどのくらいの時間対応しているかということがわかると、ボランティアガイドが必要であるとか、映像での対応でよいという話がしやすいと思う。

事:すべて説明した場合約30分かかる。その人の反応によって説明内容を短縮したり変更するなど、説明のポイントを整理をしなければならない。

メ:入口が観光であっても、そこから利用につながるということもあると思う。

事:様々なパターンを分析しながら対応時間や案内の方法は研究したい。

メ:案内をする能力と若者をサポートする能力は違うと思うので、スタッフの中でも得意なところを補えるようにすると良い。

事:9月の閉所期間中にパートスタッフの勉強会を行ったため、パートスタッフも案内ができるようになった。

メ:地域にとって町並みや古い建物は大切なものである。村半は観光施設ではないため、案内や説明は不要だと思っている。伝統的な建築物を見たい方へは吉島家住宅や日下部民藝館を案内し

た方が、下町全体のにぎわいにつながると思う。興味を示された方に対しては説明をした方が良いと思うが、若者との交流に力を入れてほしい。

メ:観光客への対応は簡単にしてもかまわない。観光客には施設の目的でもある若者が活動している場所であることを最初に話し、興味を持った方のみ案内をしてはどうか。

事:飛騨高山の歴史的な魅力を知っていただき、関係人口を創出することもこの施設の目的の一つであるが、観光客への対応についてはみなさんの意見も踏まえて検討したい。

メ:お茶会の利用があったが、利用された団体の方は、施設を利用している若者にもお茶会に参加してほしいという思いがある。自主学习で来た学生が休憩時間にイベントに参加することも良いことだと思う。

メ:飲食については保健所に確認をした方が良い。

メ:スタッフの増減はあったか。先ほどパソコンの入力の練習という話があったため、増員したのかと思った。

事:令和3年の春から増減はなし。これまでフルタイムスタッフしか対応できなかった部分について、パートスタッフも対応できるように研修を行った。

メ:先ほどのスタッフの観光案内と中高生への対応にジレンマがあるという話については、スタッフが悩むことではなく運営側が基準を決めてスタッフに伝えるべきことだと感じた。基準があればスタッフが動きやすくなると思う。また、若者との交流について、声掛けをしてほしくない方もいると思うため、学生とうまくコミュニケーションをとってほしい。何かあればいつでも相談できるような体制であると良い。

メ:この施設は公共の施設として新しいモデルの施設であるため、これまでも利用基準などについて、この検討会の場で協議をしながらルールを作ってきたところがある。市の職員では線引きができないところをこの検討会の場において協議をし方向を決めていきながら運営していくと思っている。

メ:今回のようにスタッフに参加してもらい生の声を今後も聞かせていただくことで、この会も有意義な会になると思う。

以上